
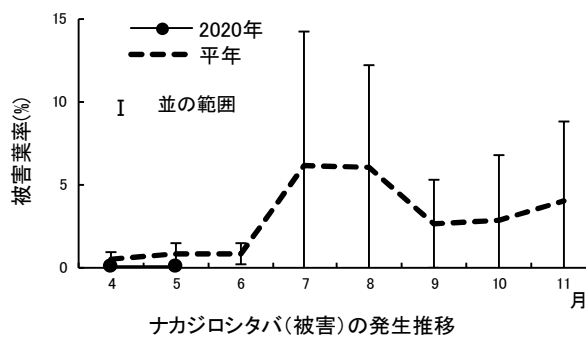
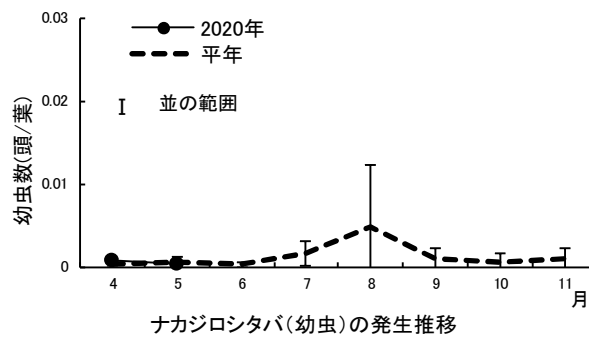



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

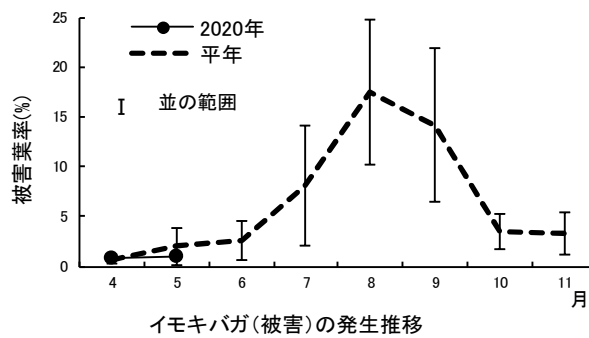
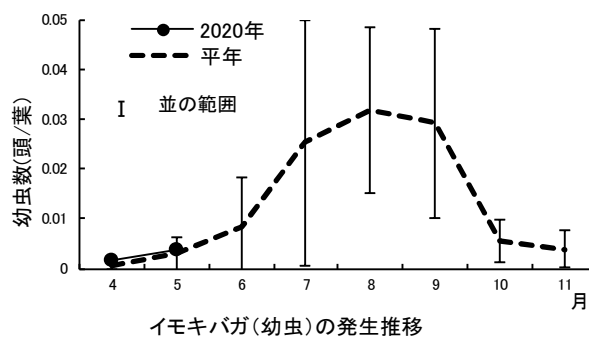


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

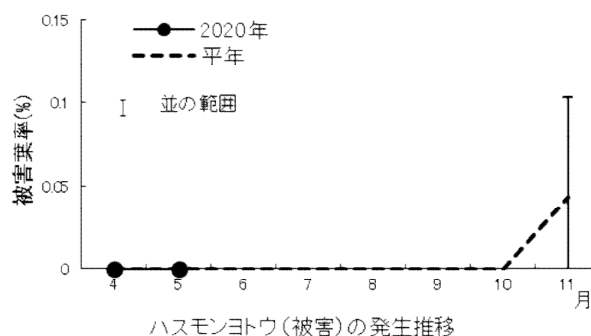
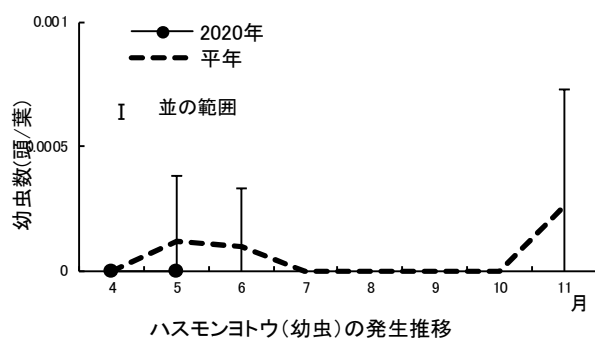


防除のポイント

- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	ハスモンヨトウ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



若齢幼虫




中齢幼虫



中齢幼虫

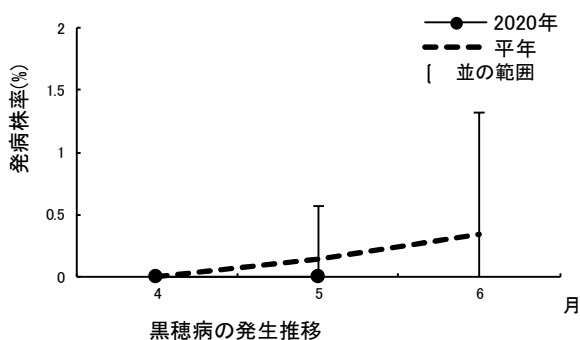
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

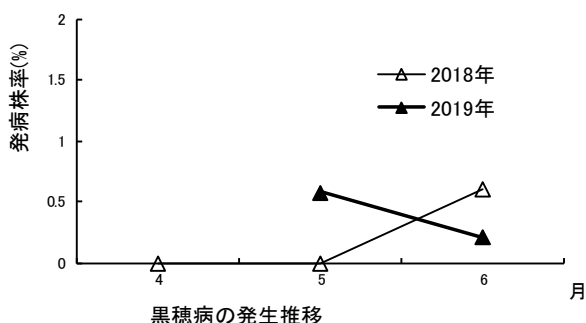
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① 黒穂病		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



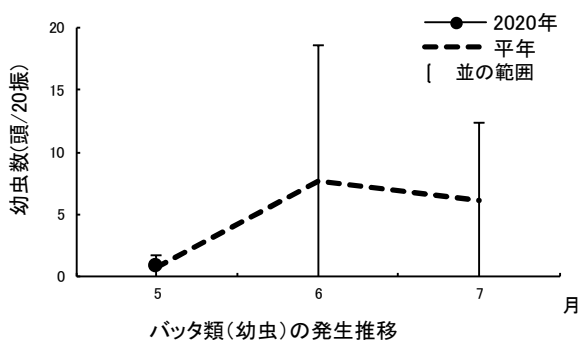
防除のポイント

- ・ 発生は4月頃から見られ、6～7月に多くなる。
- ・ 胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。
- ・ 発病ほ場やその隣接地から採苗しない。

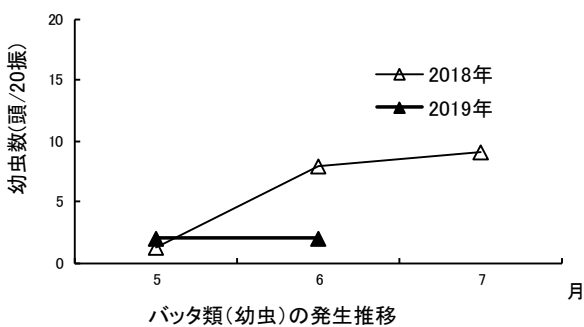
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② バッタ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移

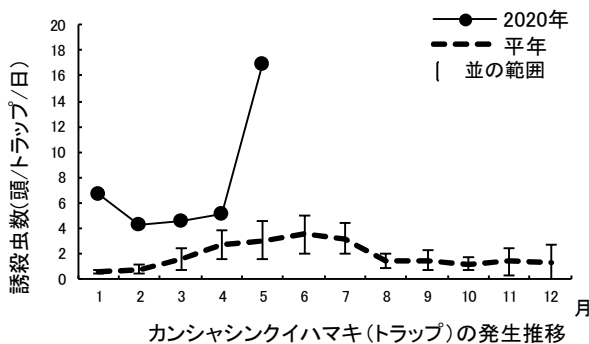
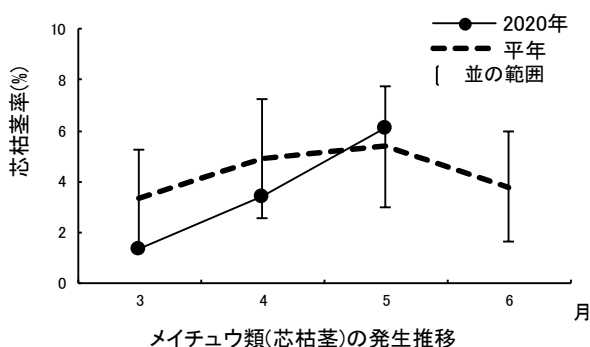


防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↘)	


調査結果



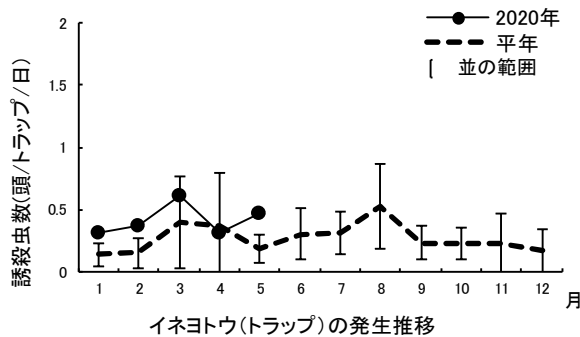
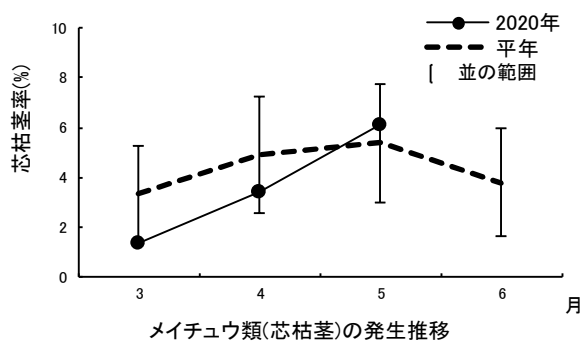
- ・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の91%(52/57頭)がカンシャシンクイハマキであった。
- ・病害虫防除員の報告(メイチュウ類)：多発生(久米島町)

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	④ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↘)	


調査結果



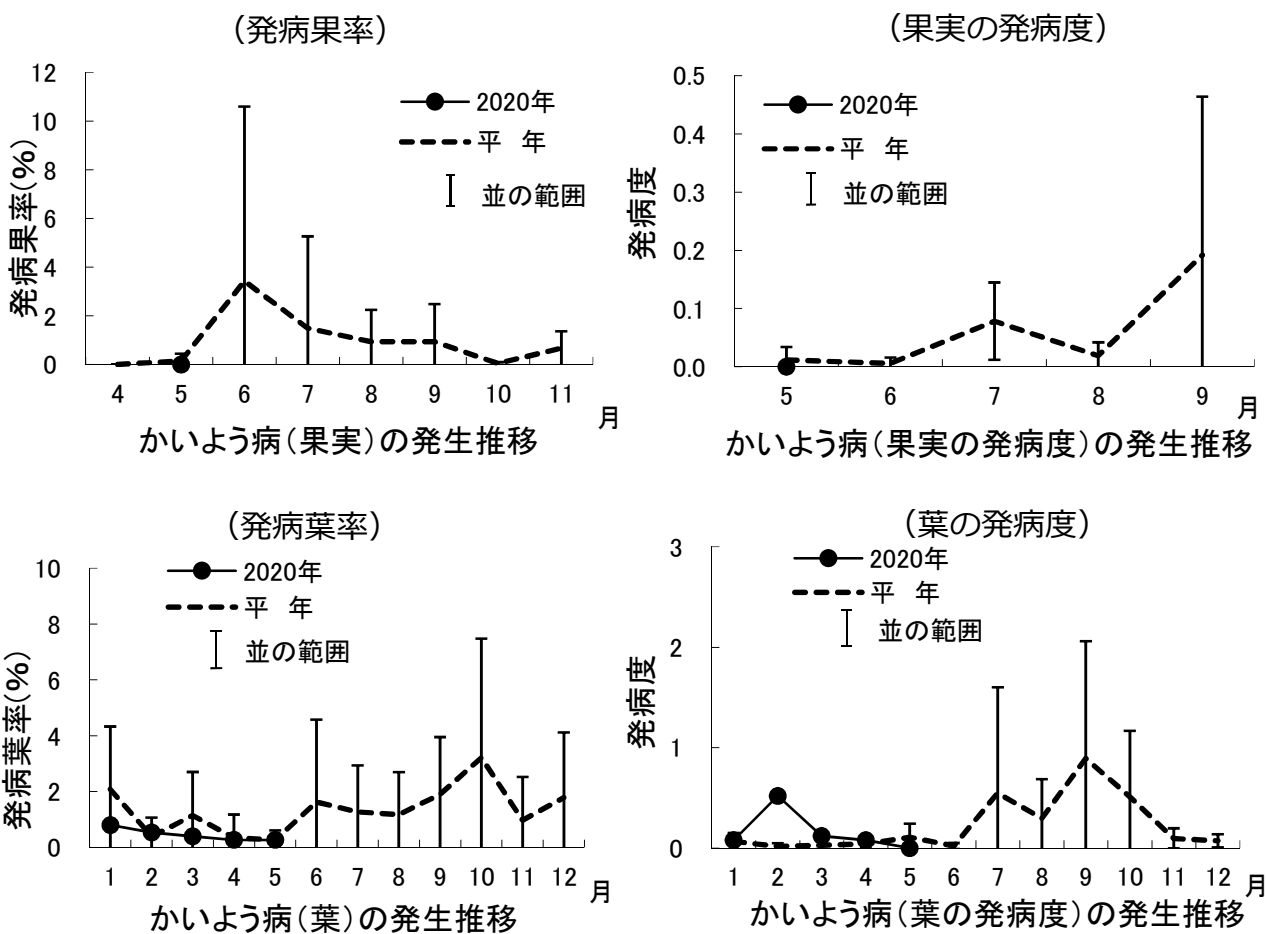
- ・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の8.8%(5/57頭)がイネヨトウであった。
- ・病害虫防除員の報告(メイチュウ類)：多発生(久米島町)

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗） 今後 1 か月の降水量が平年並か少ない見込み	

調査結果

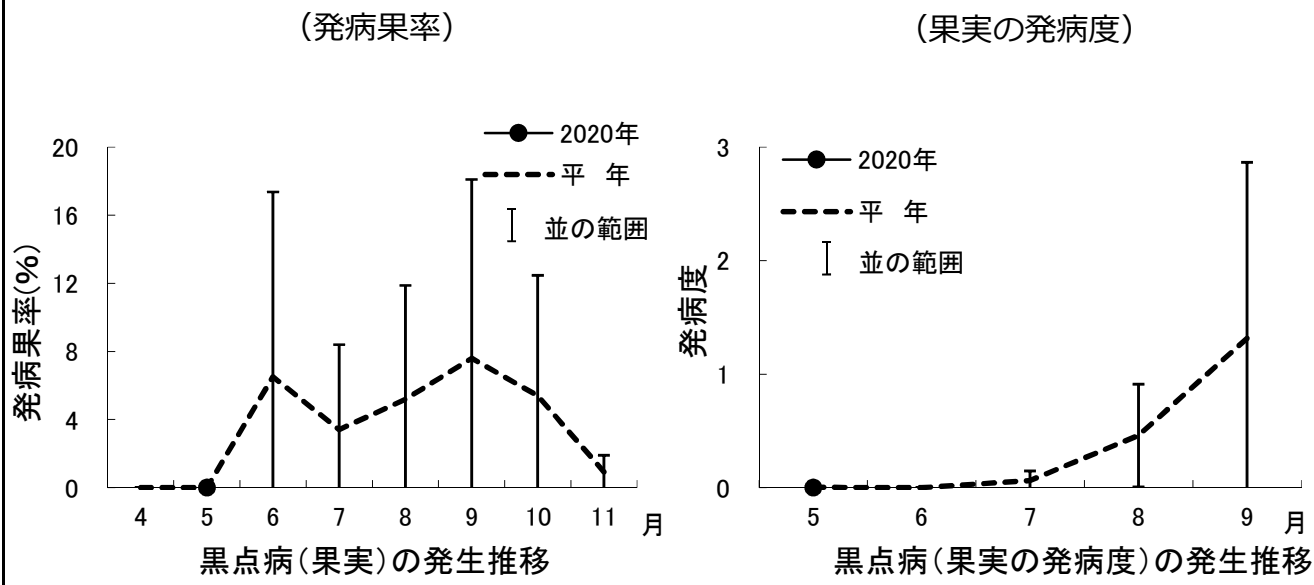


防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	


調査結果



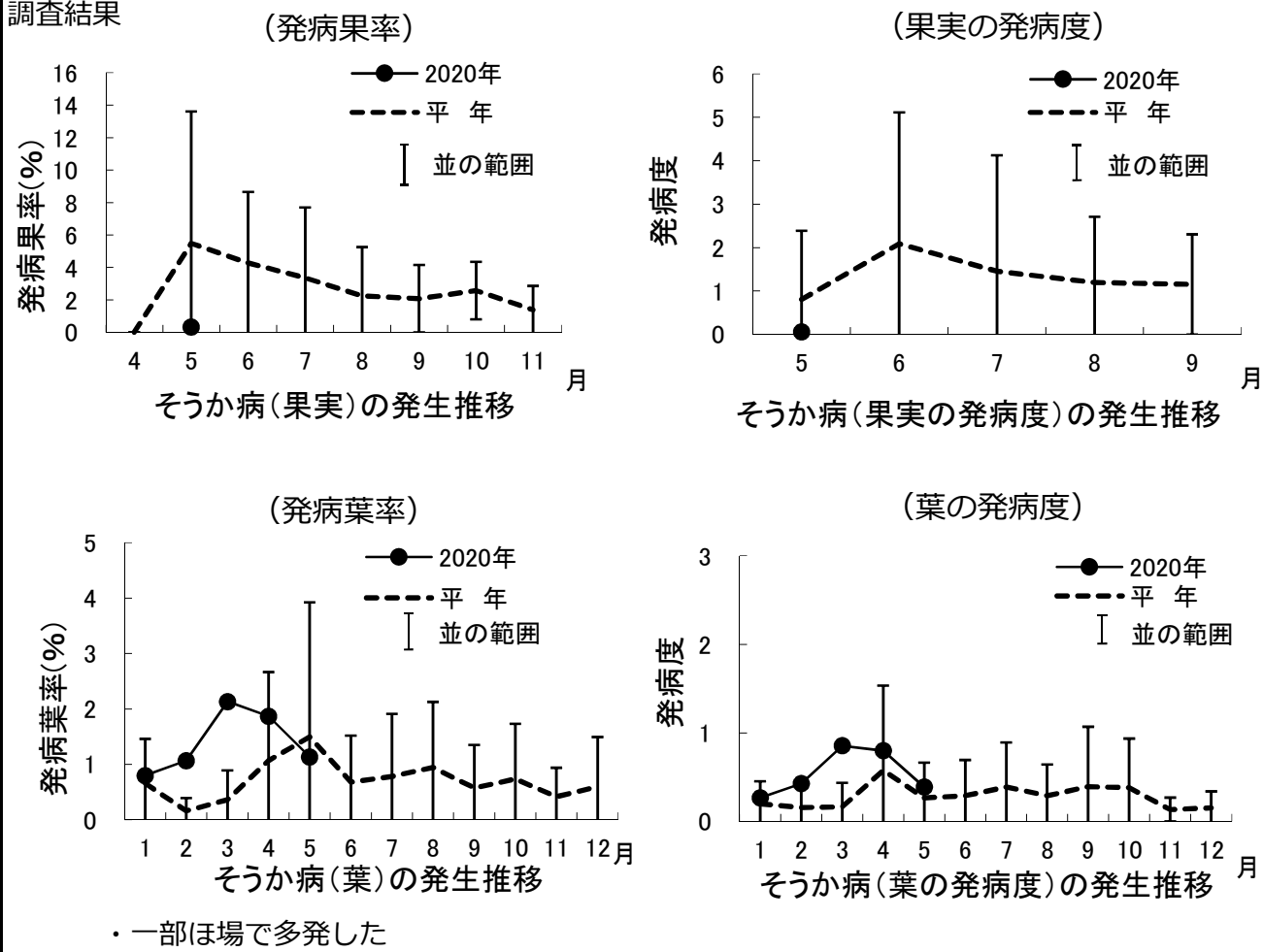
- ・ 発生ほ場率：0%（平年2.6%）

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の降水量が平年並か少ない見込み	

調査結果



防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→



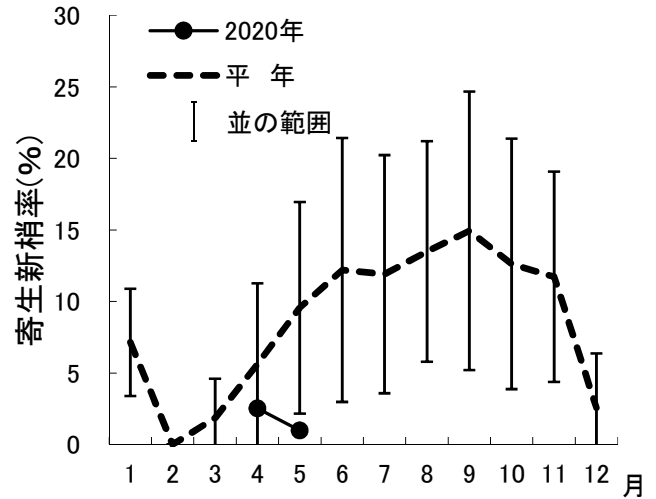
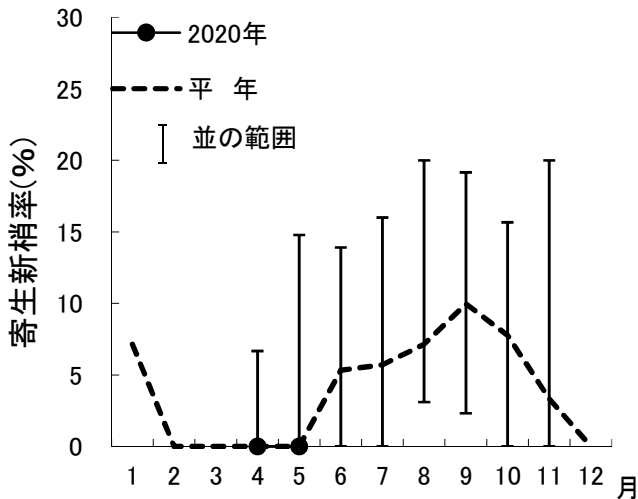
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	



調査結果

〈中央値〉

〈平均値〉



アブラムシ類の発生推移


アブラムシ類の発生推移

・ 発生ほ場率：40%（平年40%）

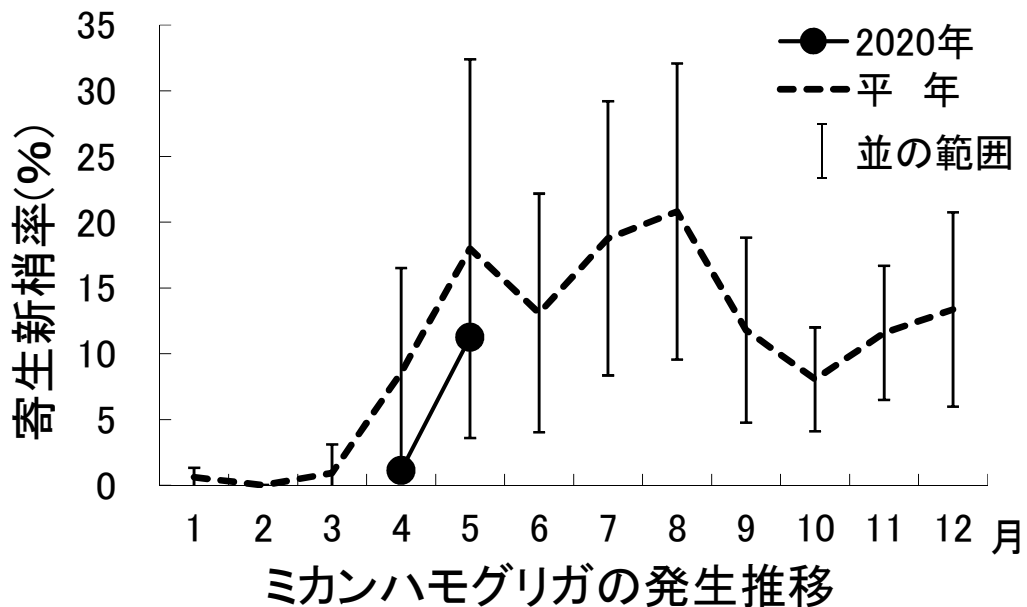
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓）	


調査結果



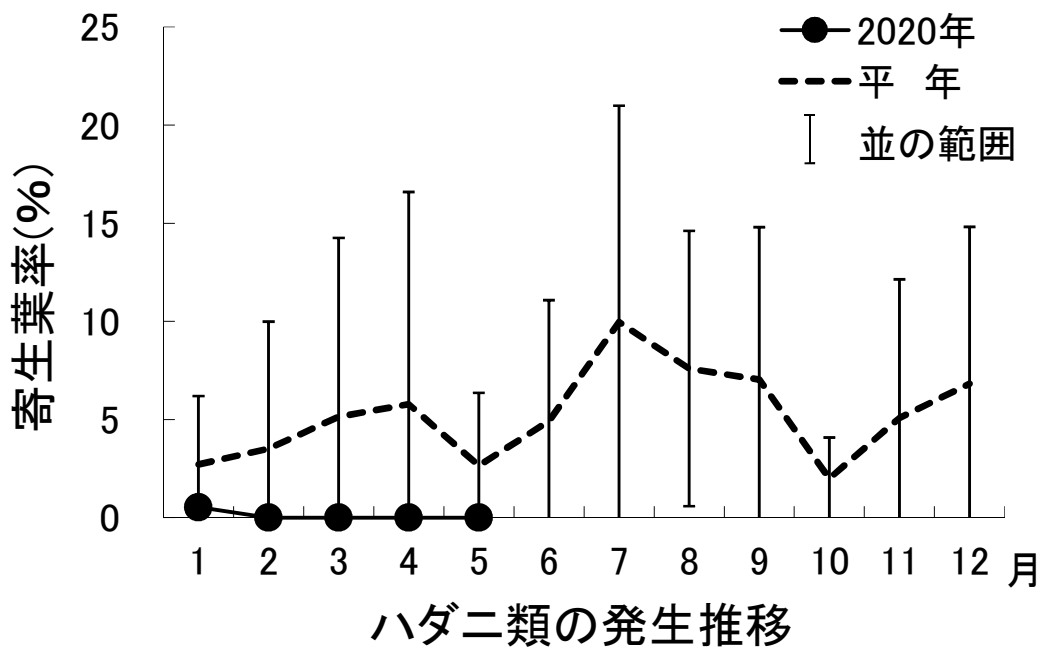
・ 発生ほ場率：60%（平年62.5%）

防除のポイント

・ 被害葉にかいよう病が発生しやすいため、除去に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果



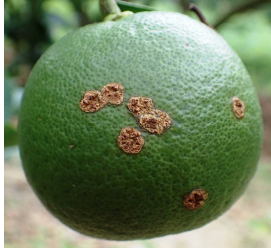
・ 発生ほ場率：0%（平年30.8%）

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

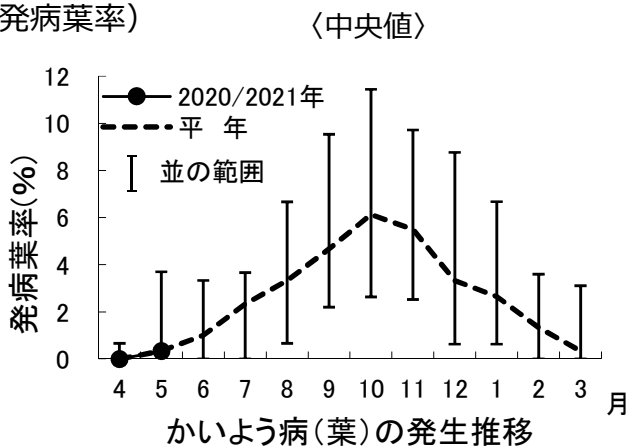


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

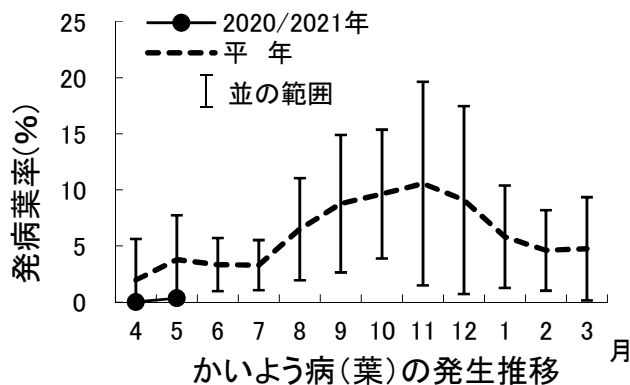
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 今後 1 か月の降水量が平年並か少ない見込み	

調査結果

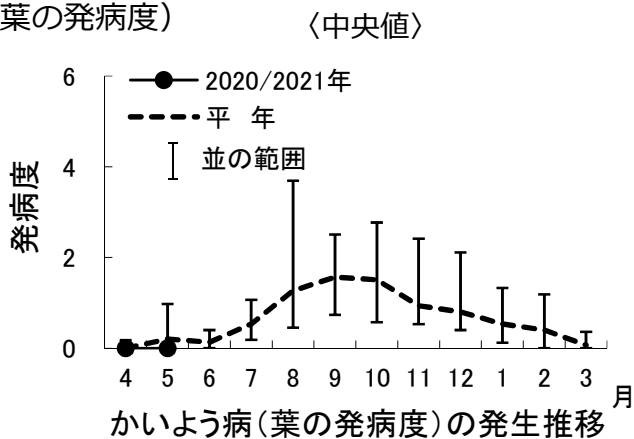
(発病葉率)



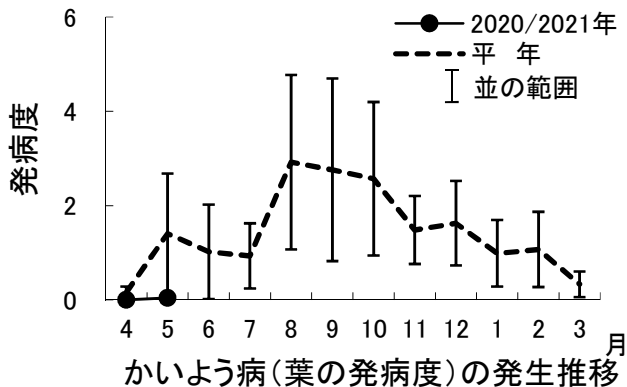
〈平均値〉



(葉の発病度)



〈平均値〉




防除のポイント

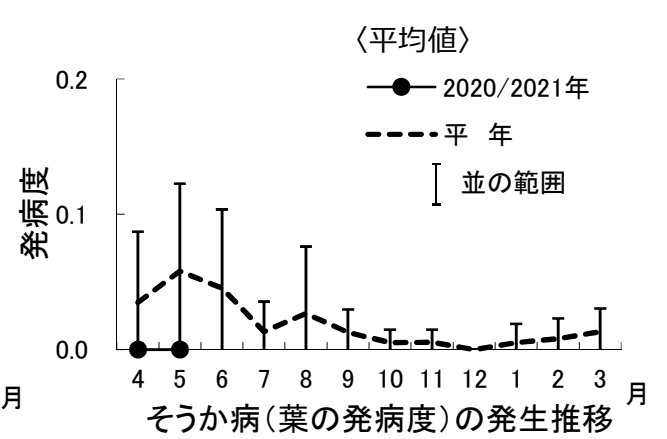
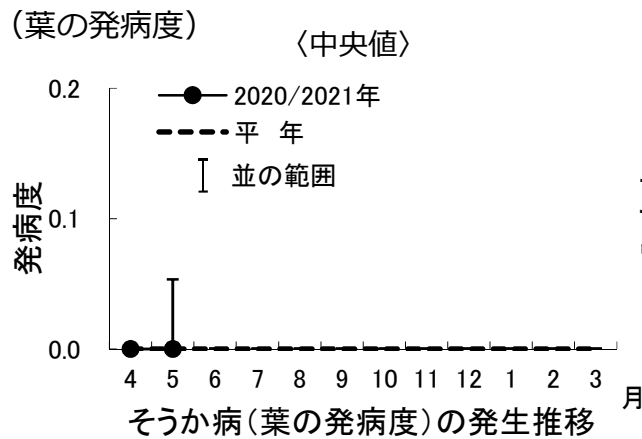
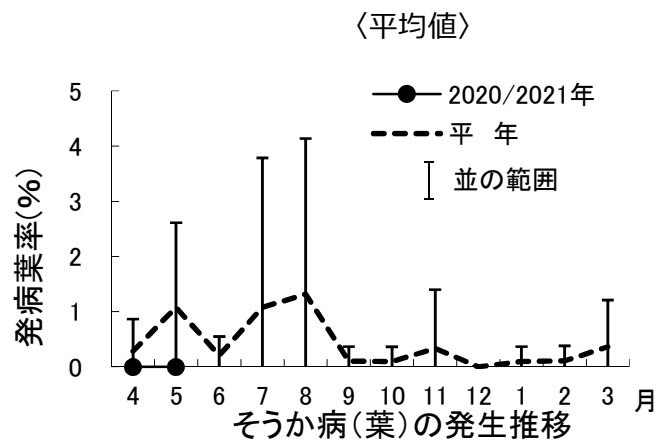
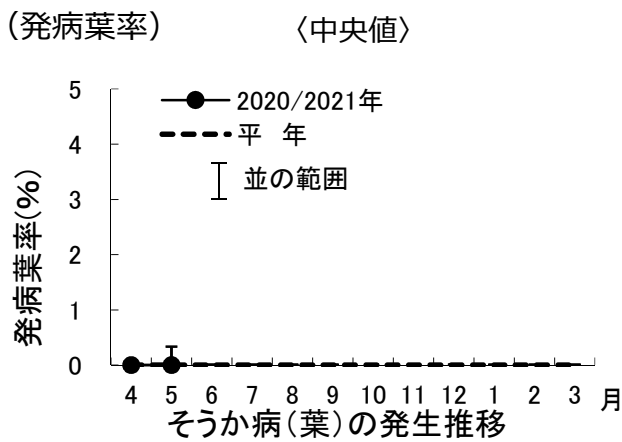
- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。



被害葉→

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の降水量が平年並か少ない見込み	

調査結果



防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

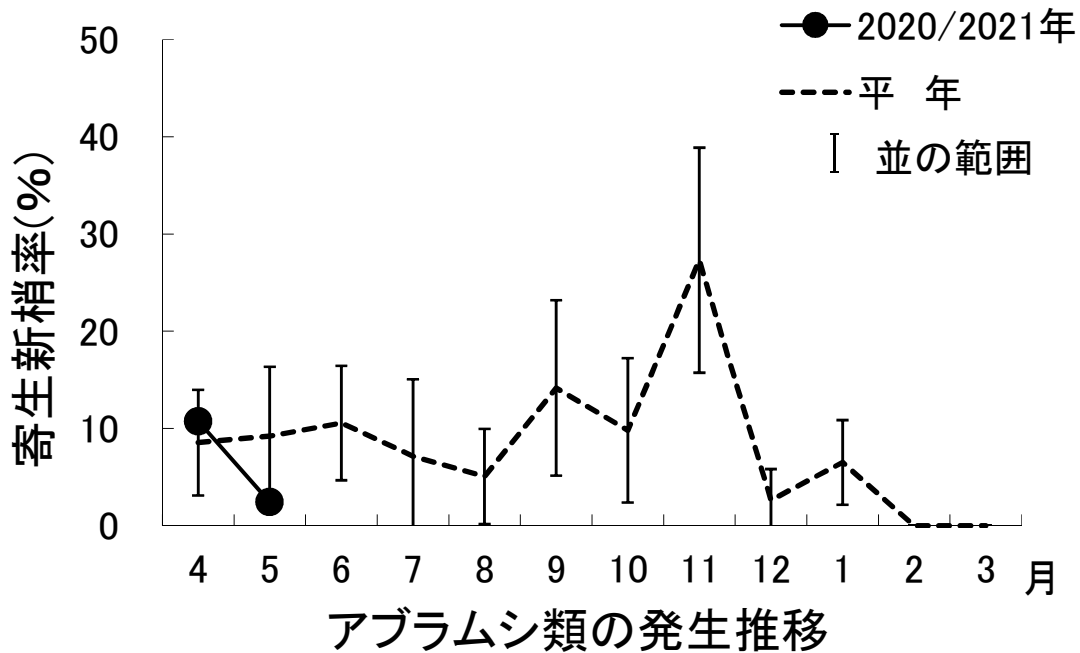
被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	



調査結果



・ 発生ほ場率：40%（平年42.1%）

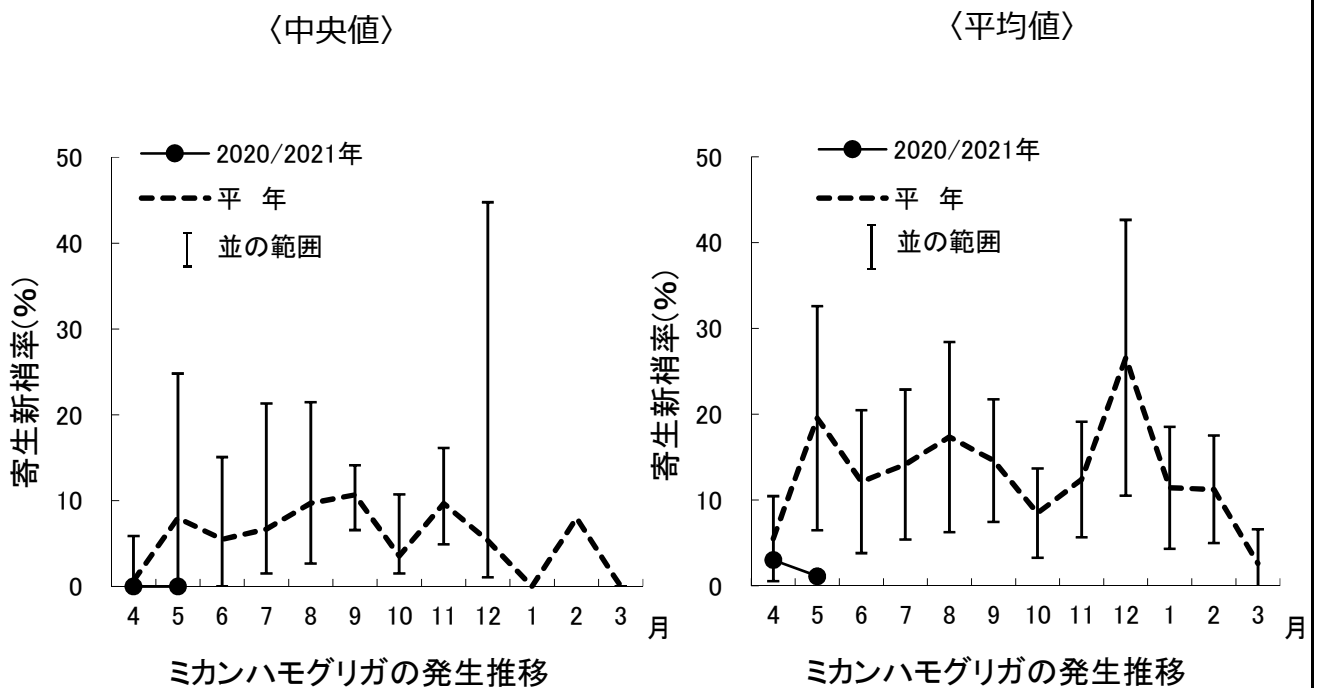
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	


調査結果



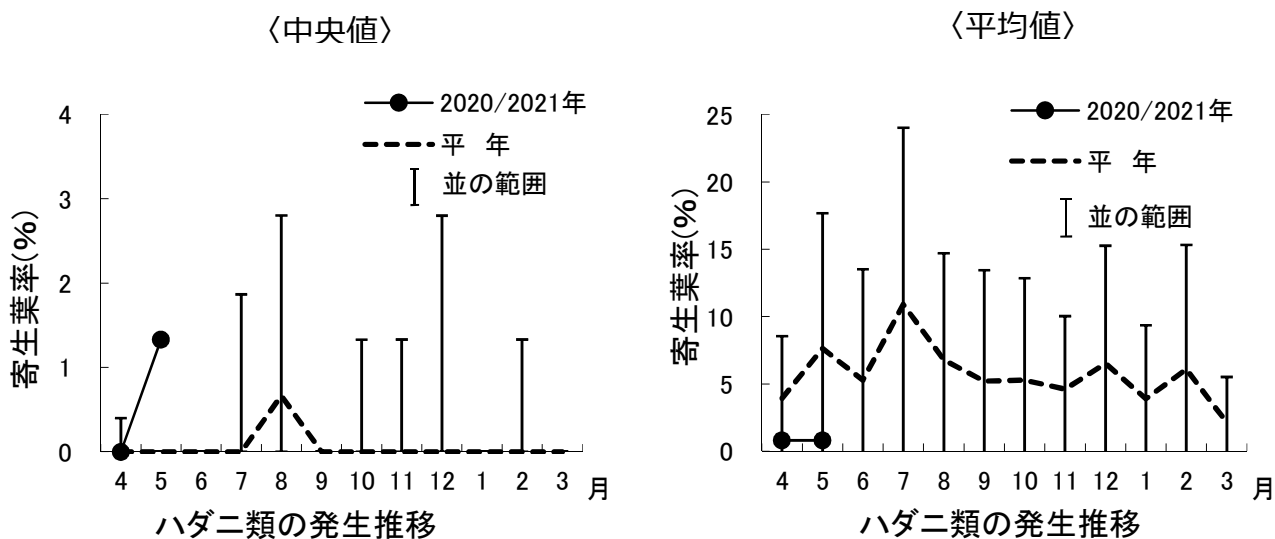
・ 発生ほ場率：40%（平年60.6%）

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	6 月の発生量（平年比）	並	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果




- ・ 発生ほ場率：60%（平年27.5%）

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



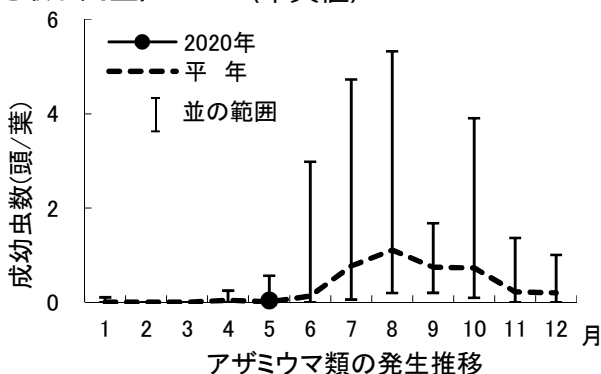
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) トラップ誘殺虫数が平年並	

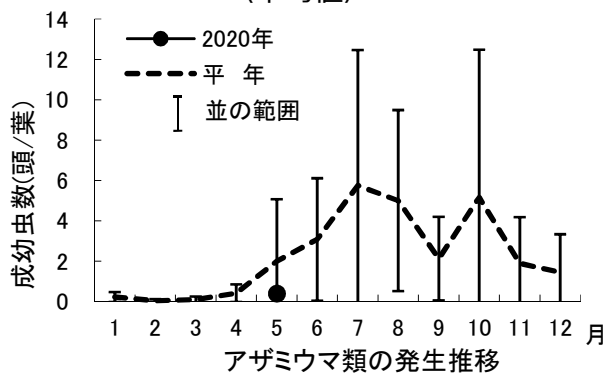
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

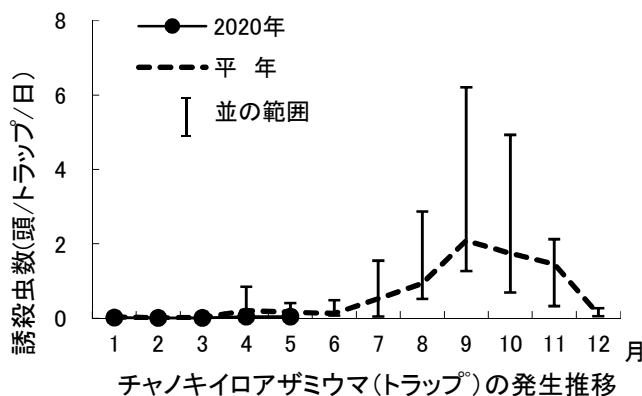


〈平均値〉

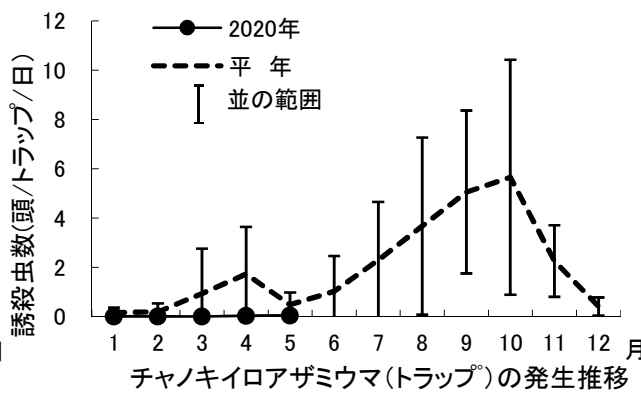


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈平均値〉




防除のポイント

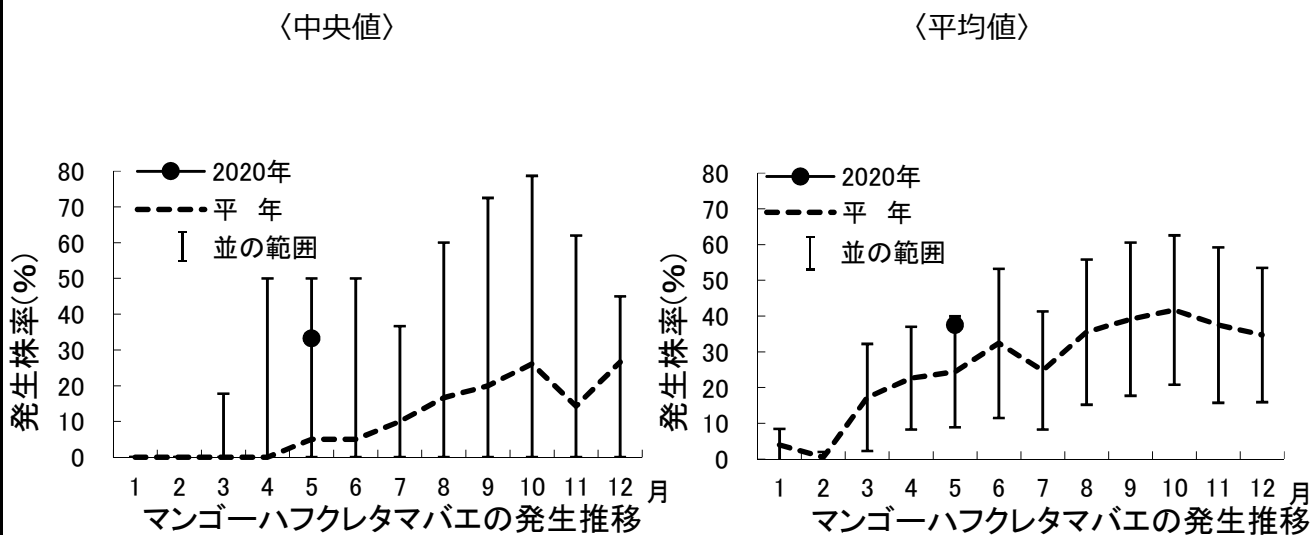
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



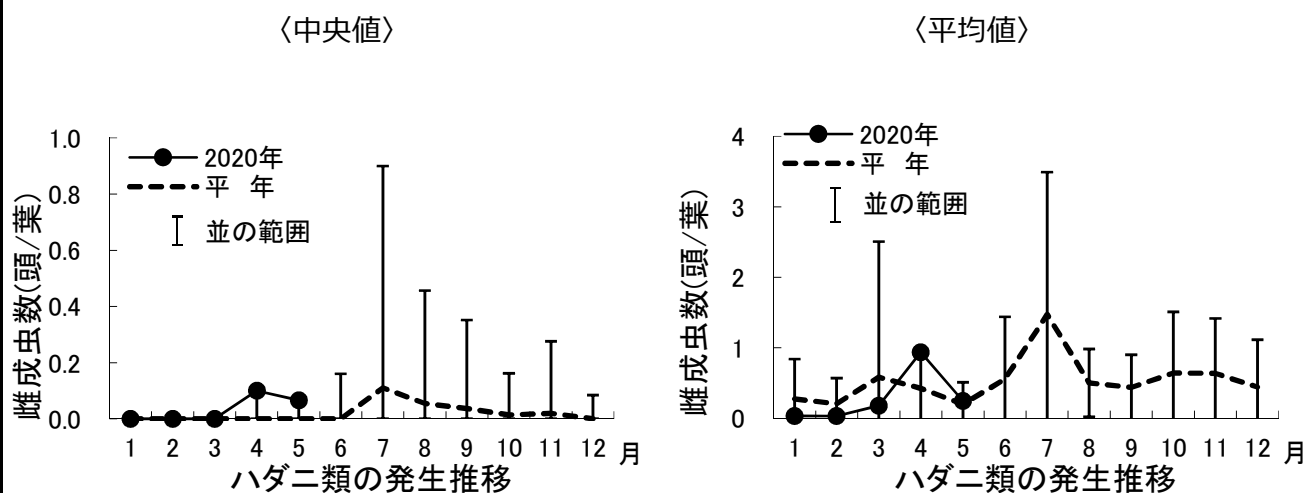
- ・ 被害新梢率 : 8.2% (平年15.6%)
- ・ 発生施設率 : 62.5% (平年50%)

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に持ち出し処分する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：62.5% (平年37.1%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0.1頭/葉 (発生種：シュレイツメハダニ)

防除のポイント

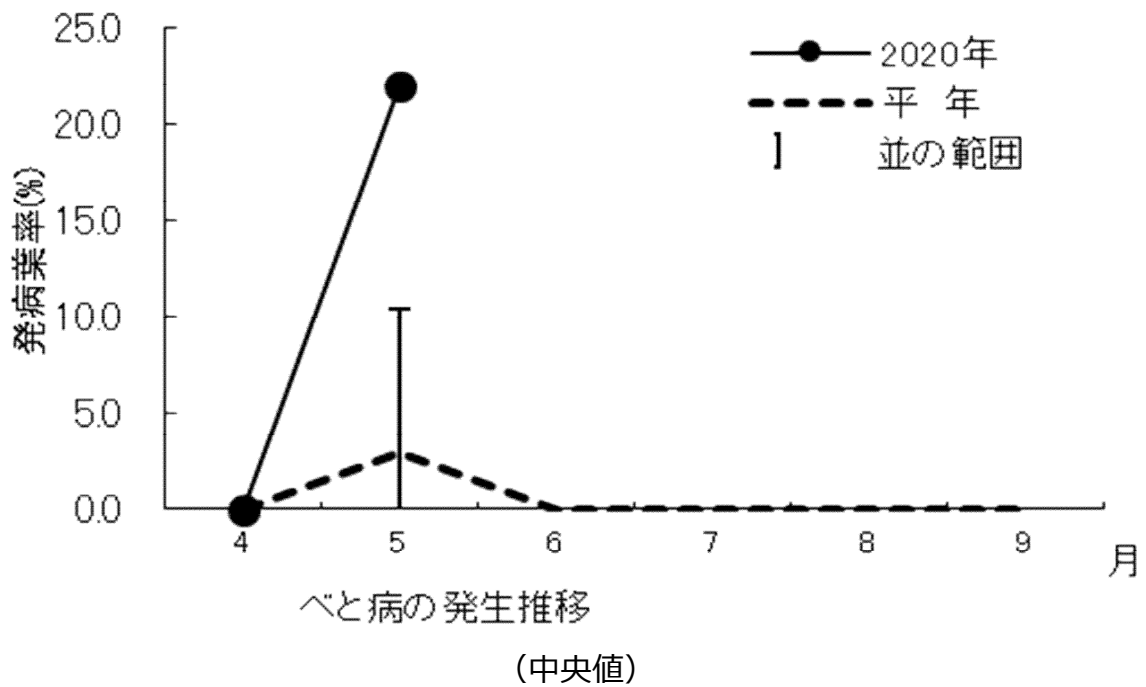
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	① ベと病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果



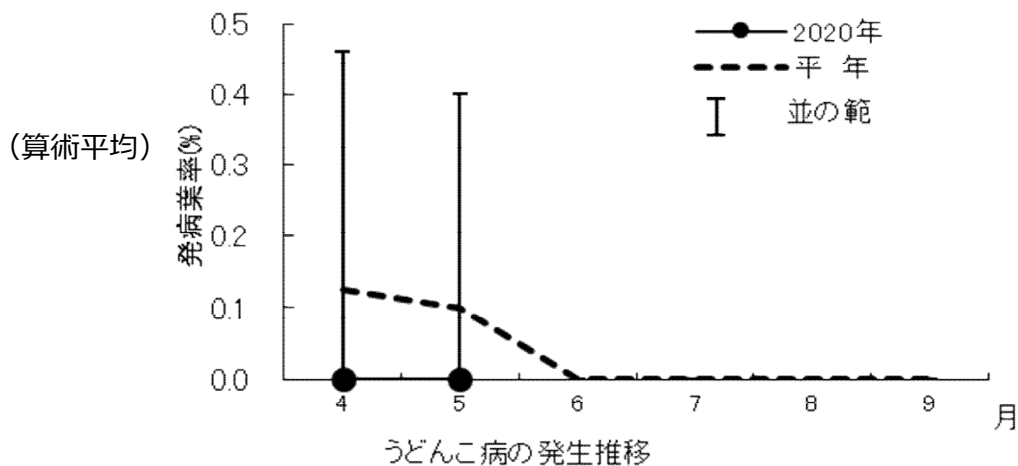
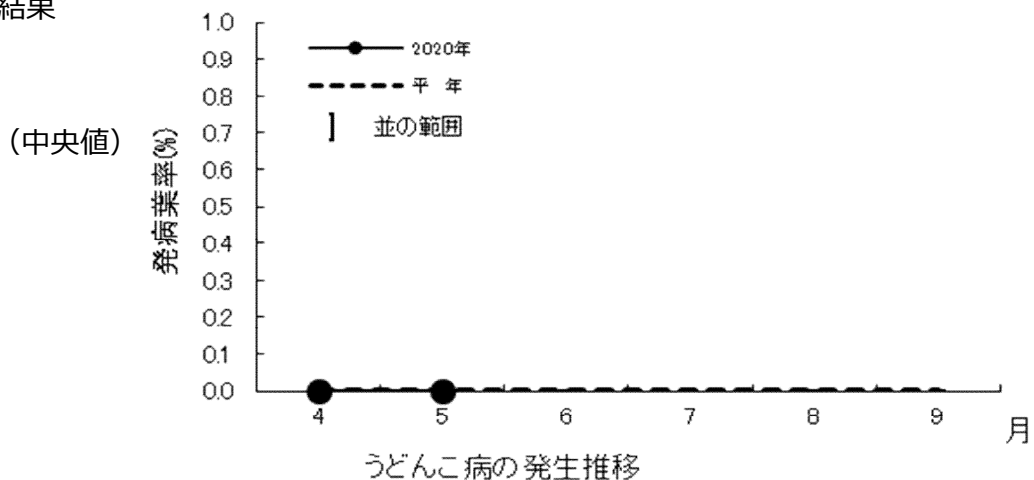
防除のポイント

- ・ 気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。




作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

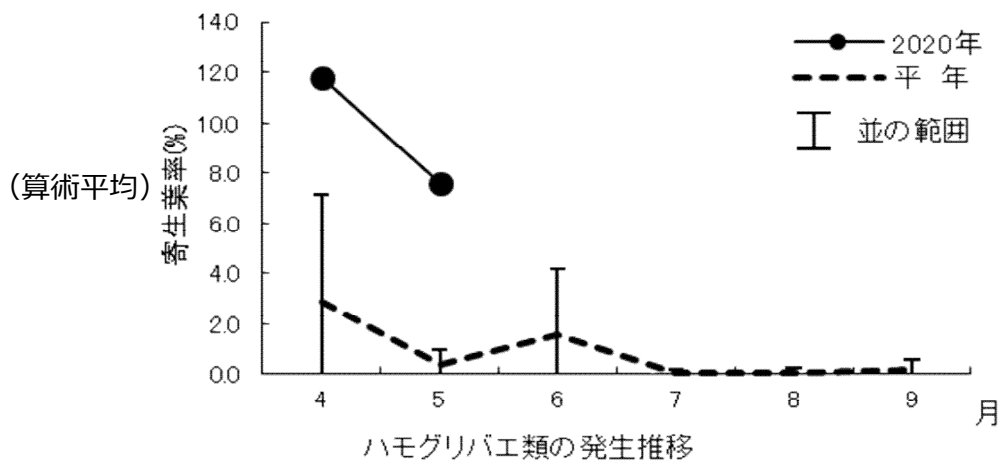
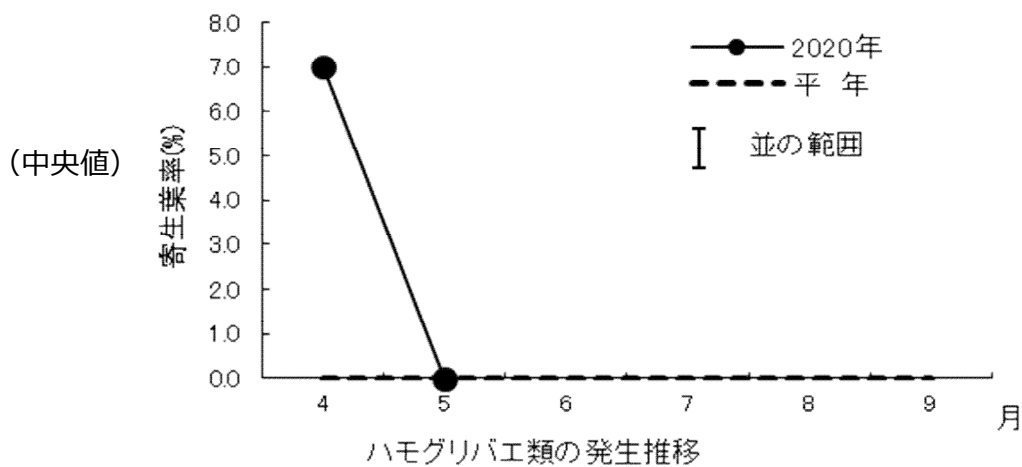


防除のポイント

- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 窒素質肥料の多施用は避ける。
- ・ 発病初期から登録薬剤を散布する。

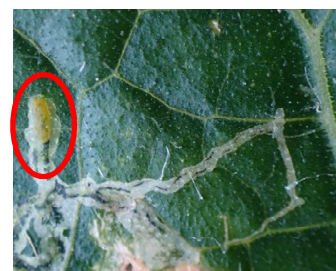
作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↑	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↑) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果




防除のポイント

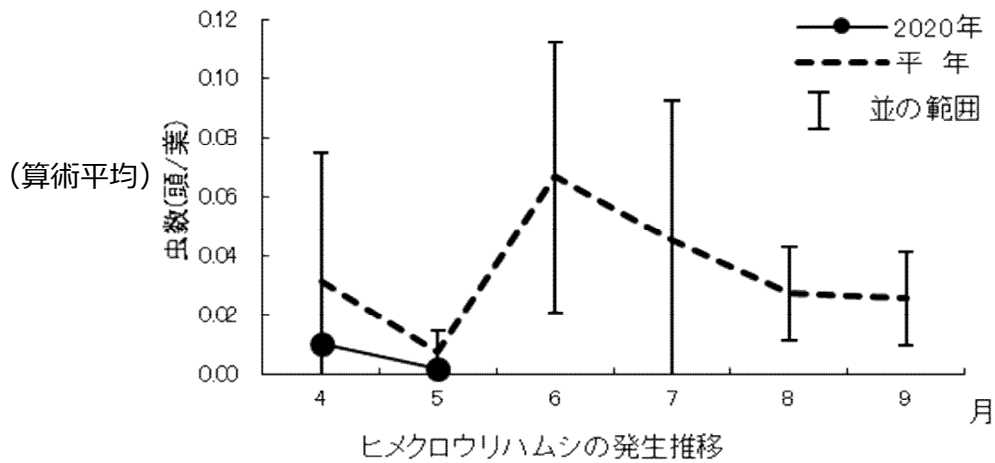
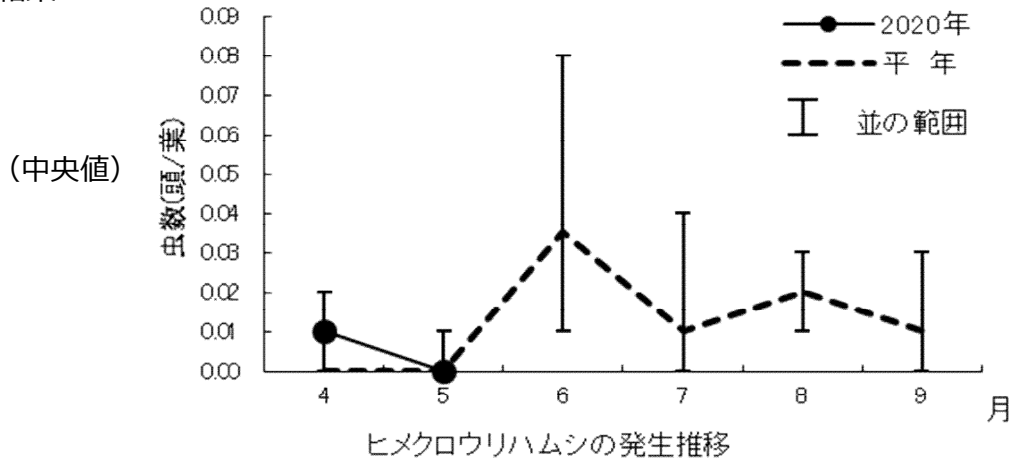
- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。



幼虫


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ヒメクロウリハムシ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

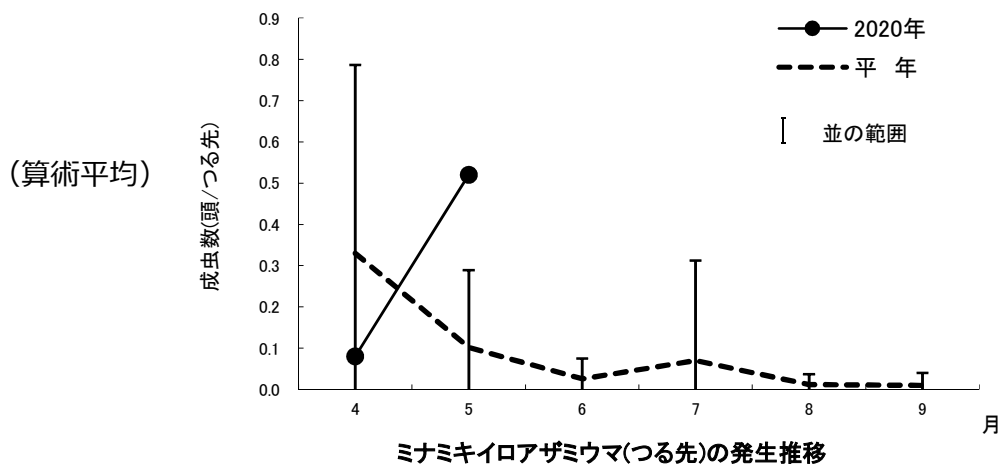
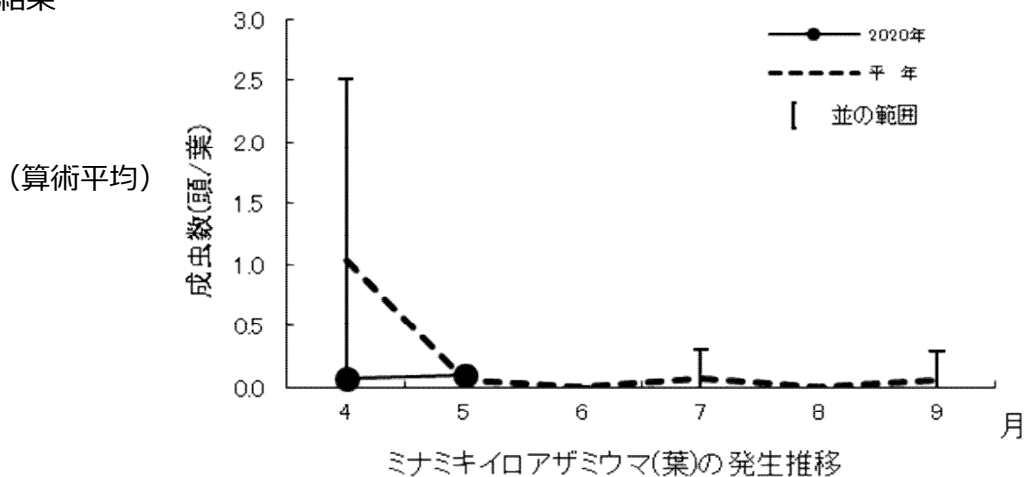


防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	つる先の平年の発生量の推移 (↓) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

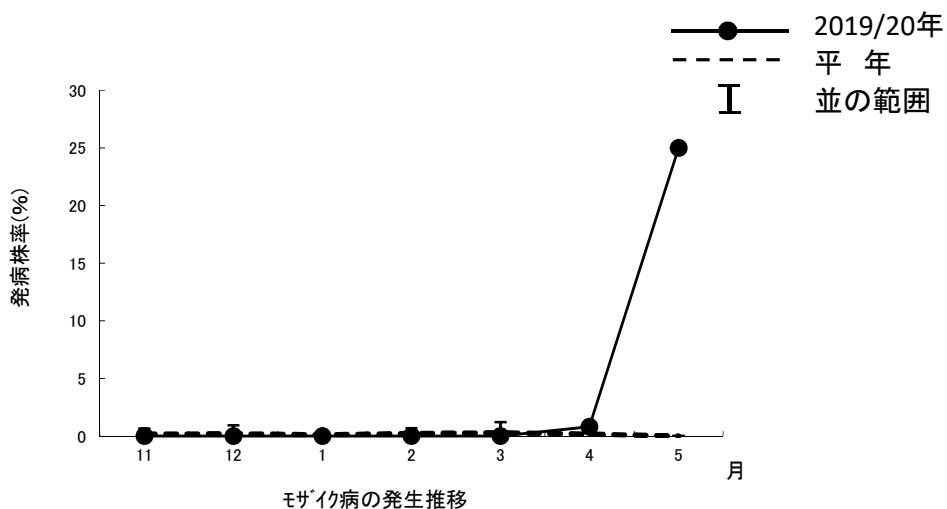


防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



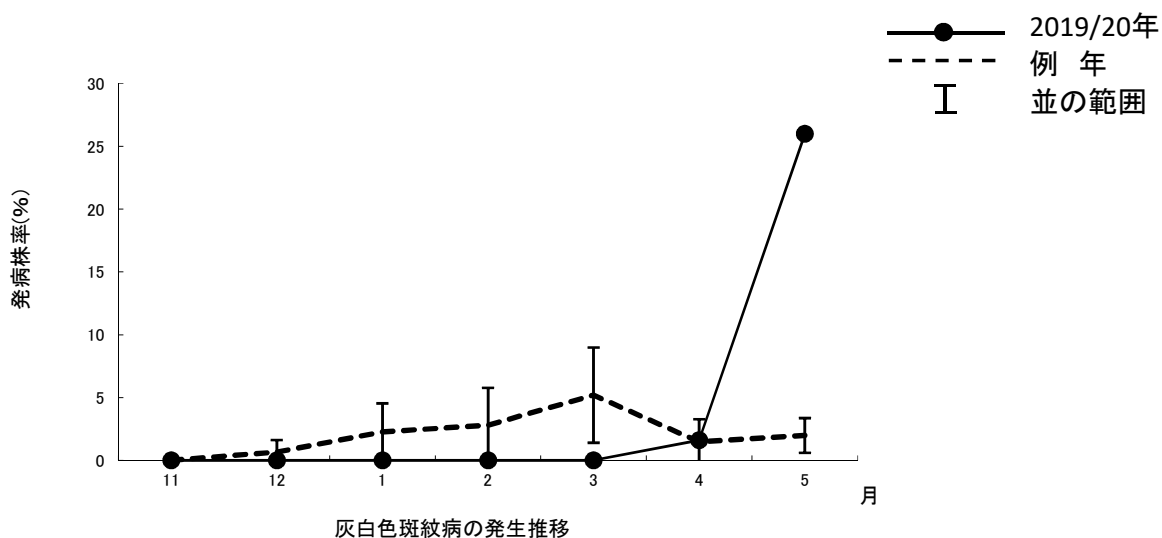
・一部ほ場で多発した。

防除のポイント

- ・ 灰白色斑紋病以外のウイルス病は主にアブラムシ類によって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

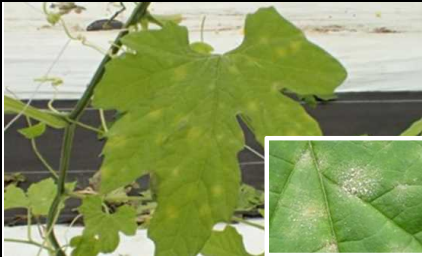
調査結果



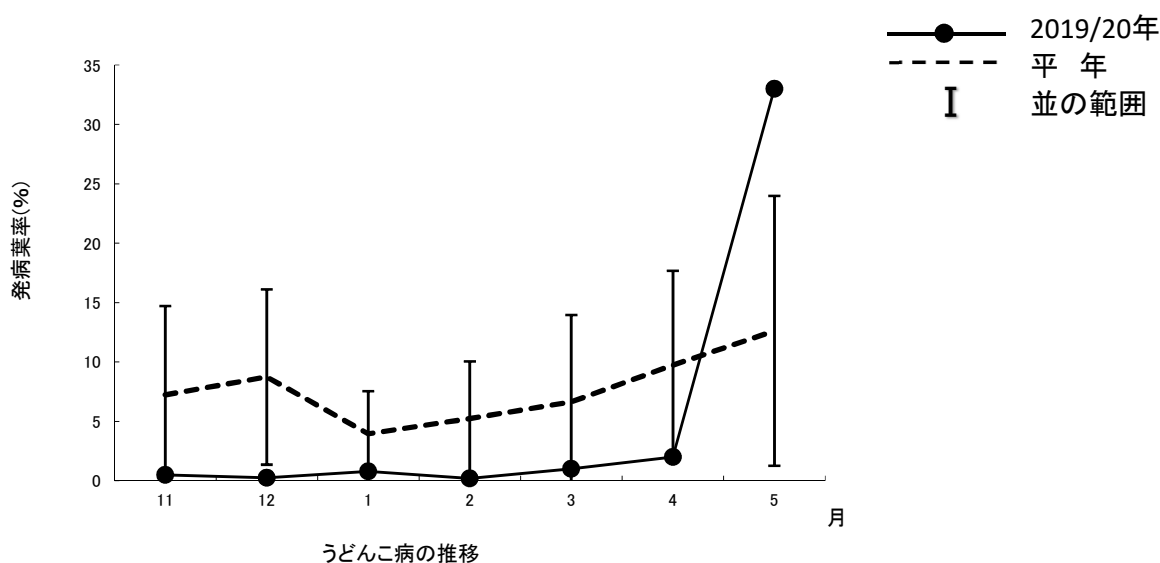
・一部ほ場で多発した。

防除のポイント

- ・媒介虫であるミナミキイロアザミウマの侵入防止、早期発見・早期防除に努める。
- ・発病株は感染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

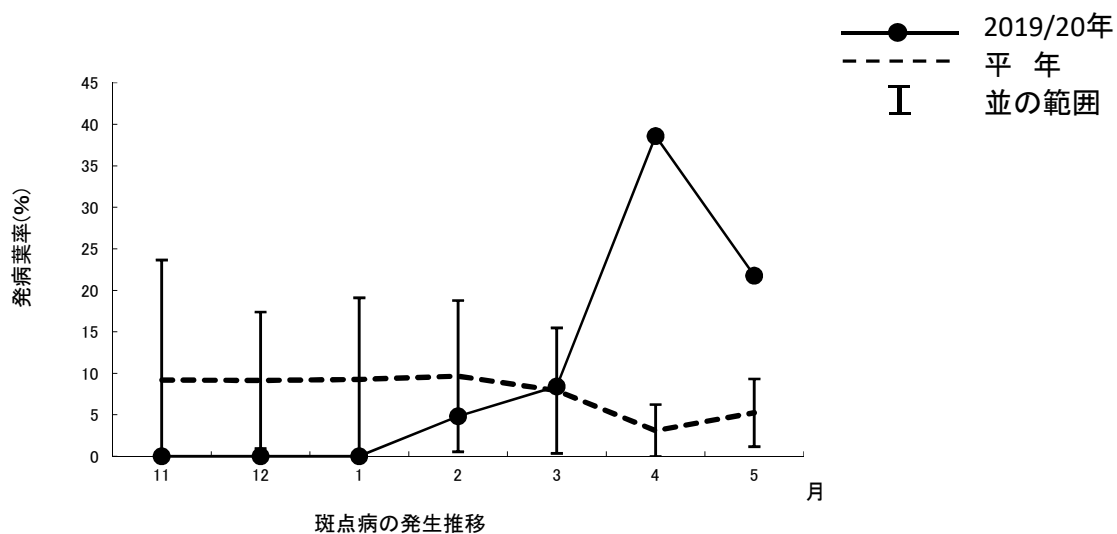


防除のポイント

- ・ 老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

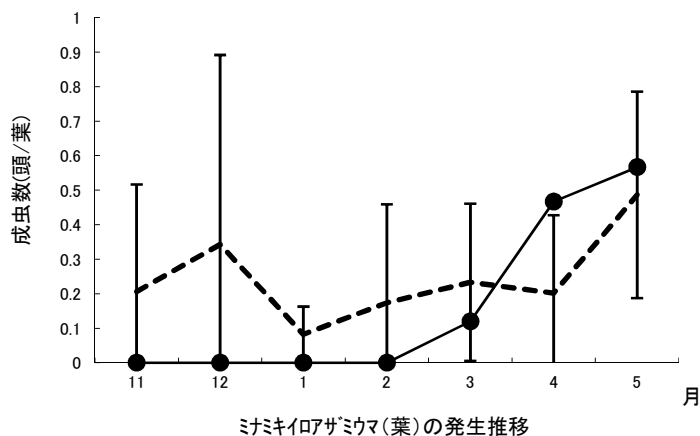
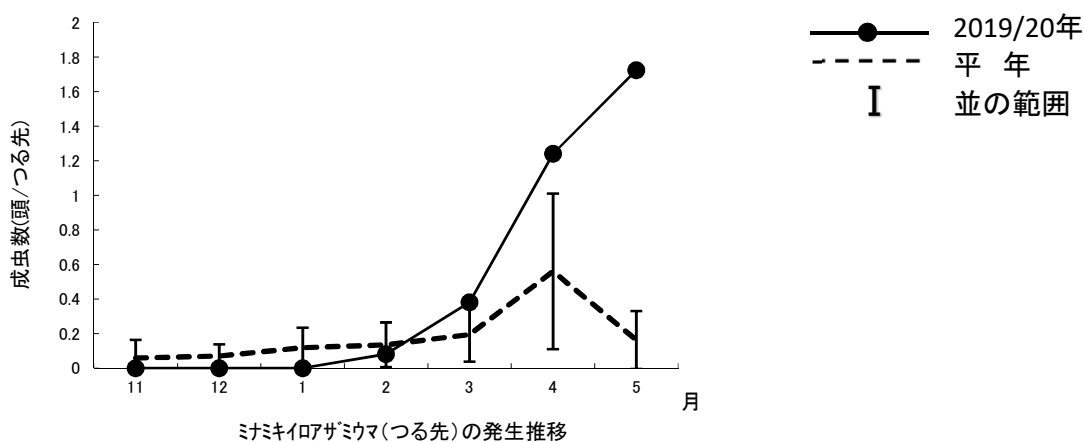


防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



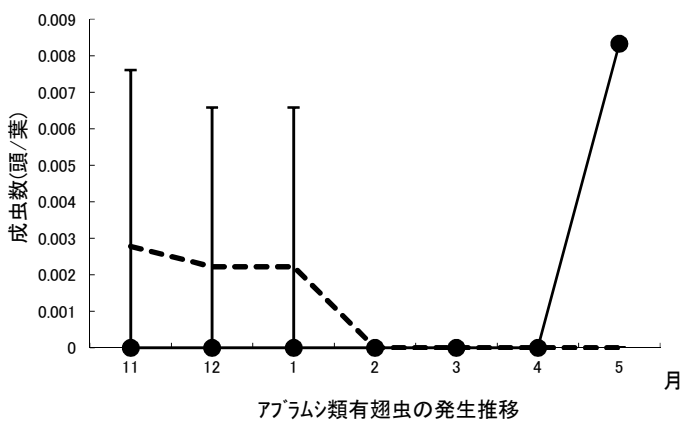
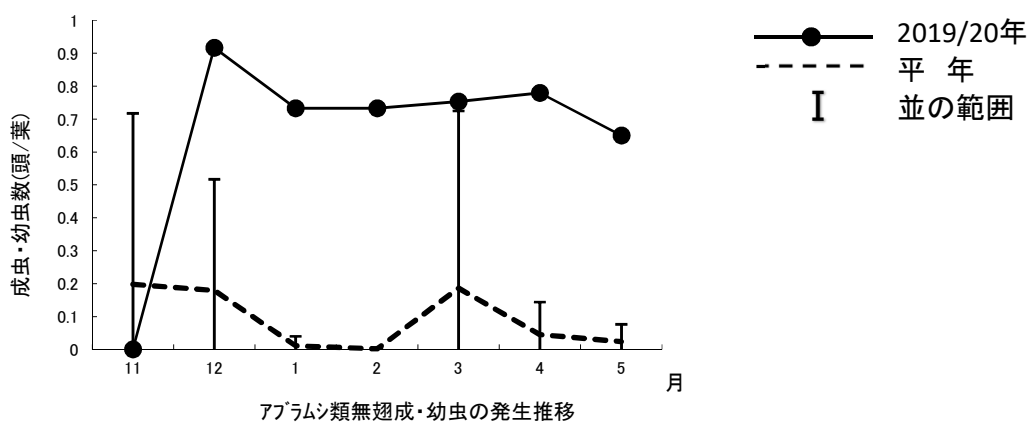
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

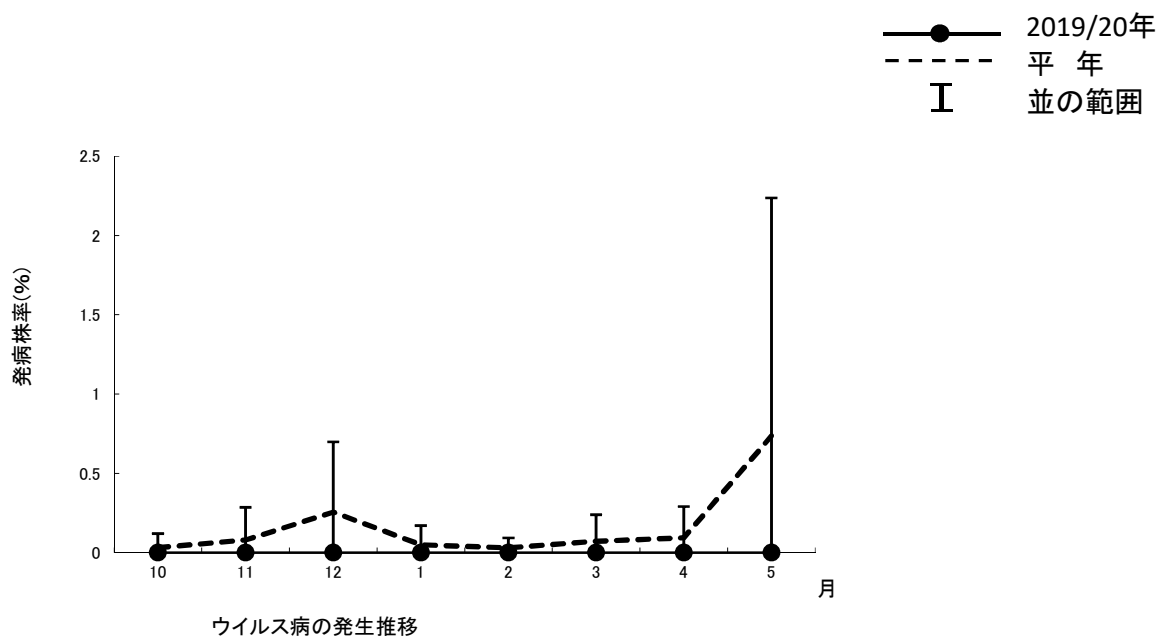


防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

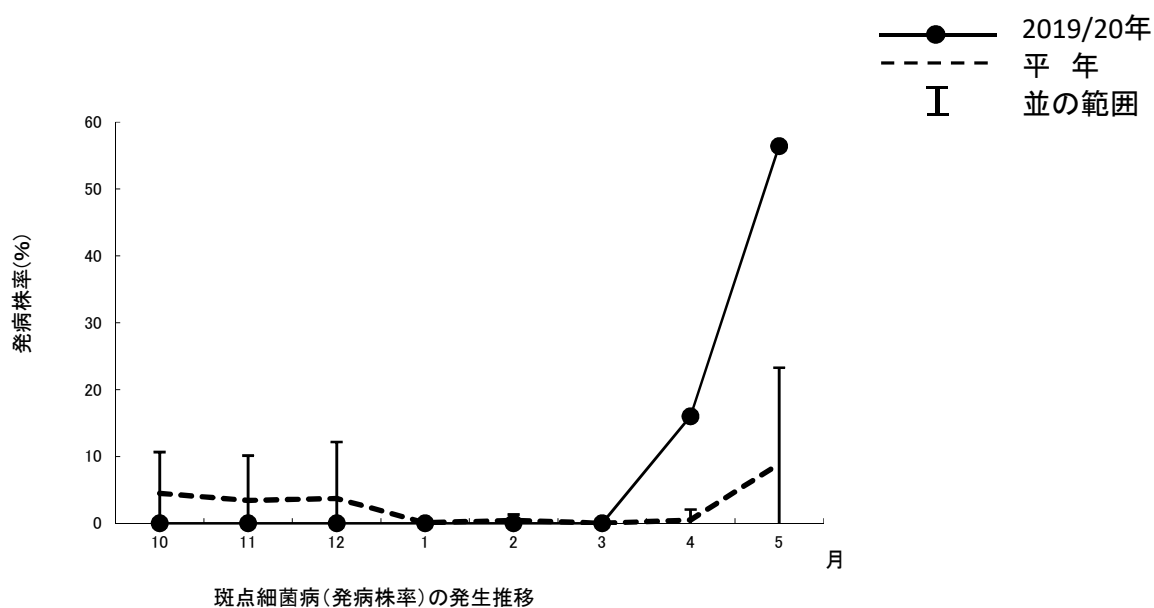


防除のポイント

- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点細菌病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

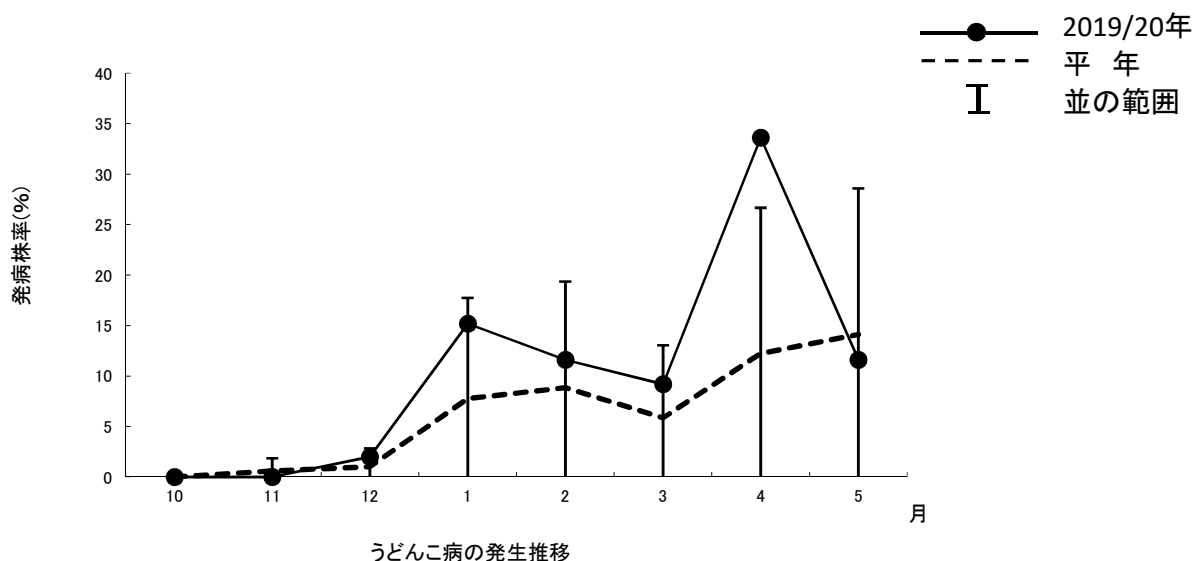


防除のポイント

- ・本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも発生する。
- ・ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		



調査結果



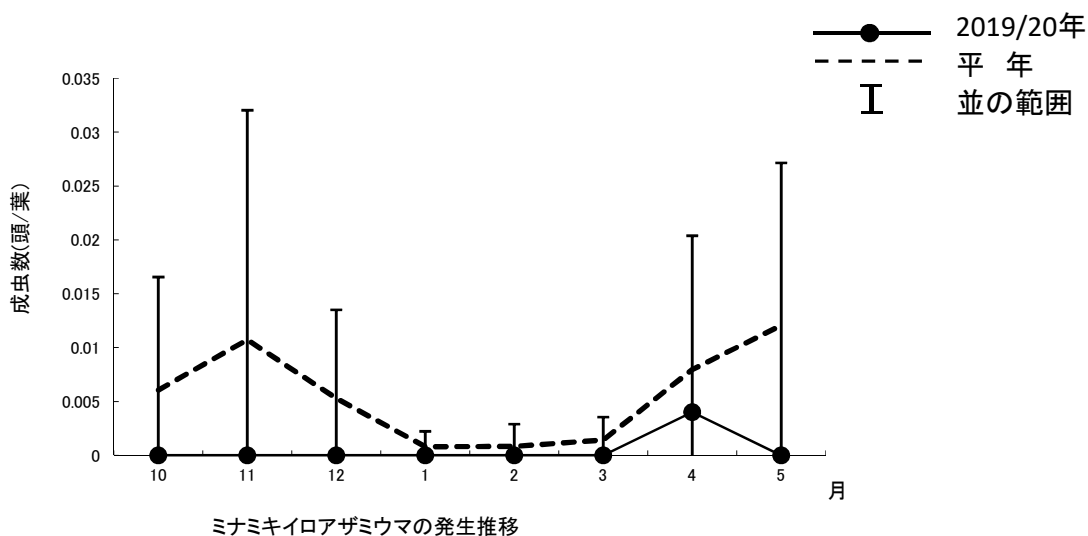
- ・分生子の形成・発芽適温は、25～30℃である。

防除のポイント

- ・通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		 
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

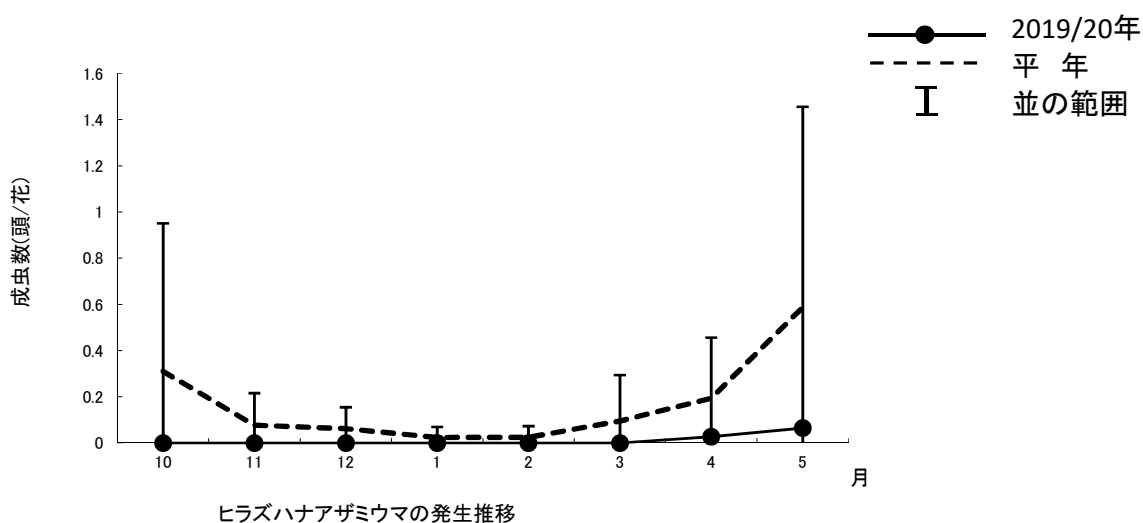


防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス及びトウガラシ退緑ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ヒラズハナアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

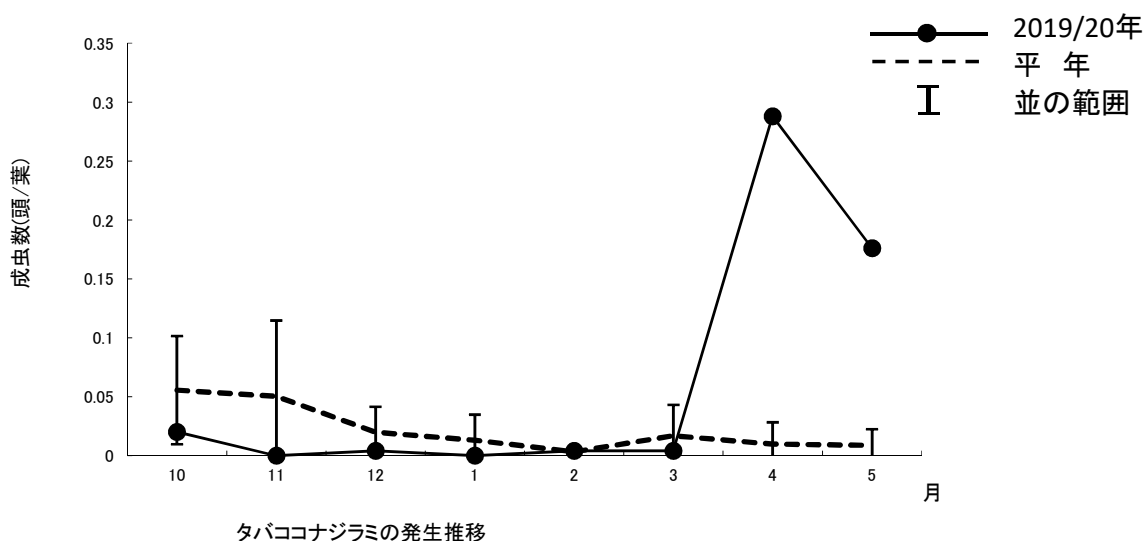


防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へタ部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① タバココナジラミ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



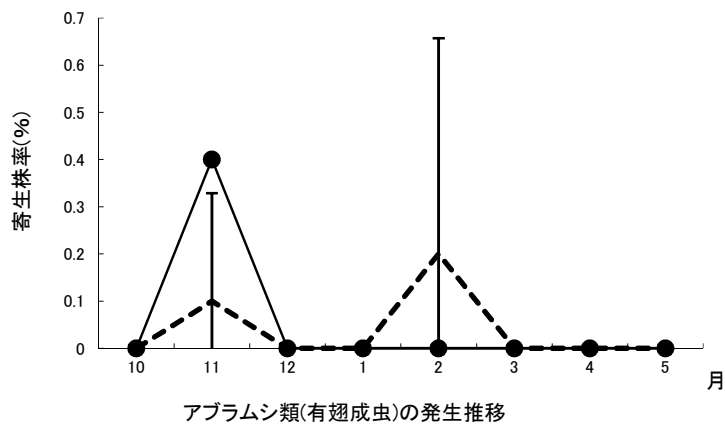
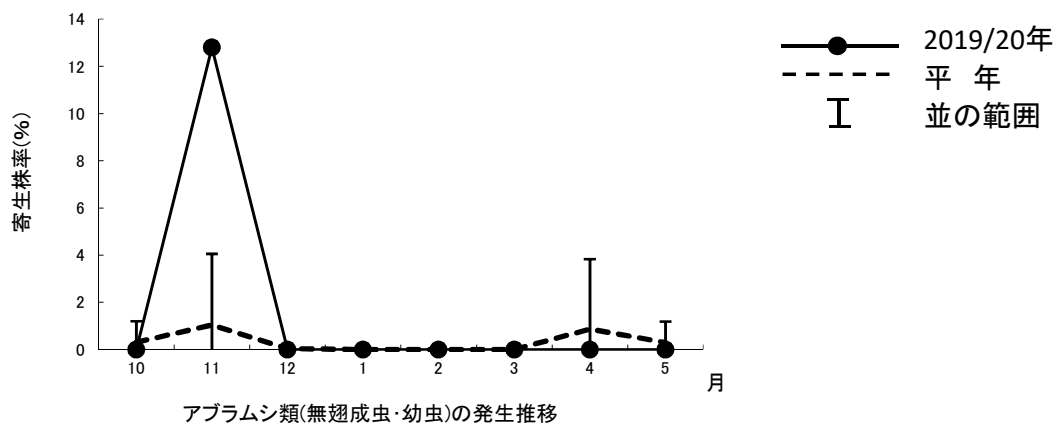
防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。




作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

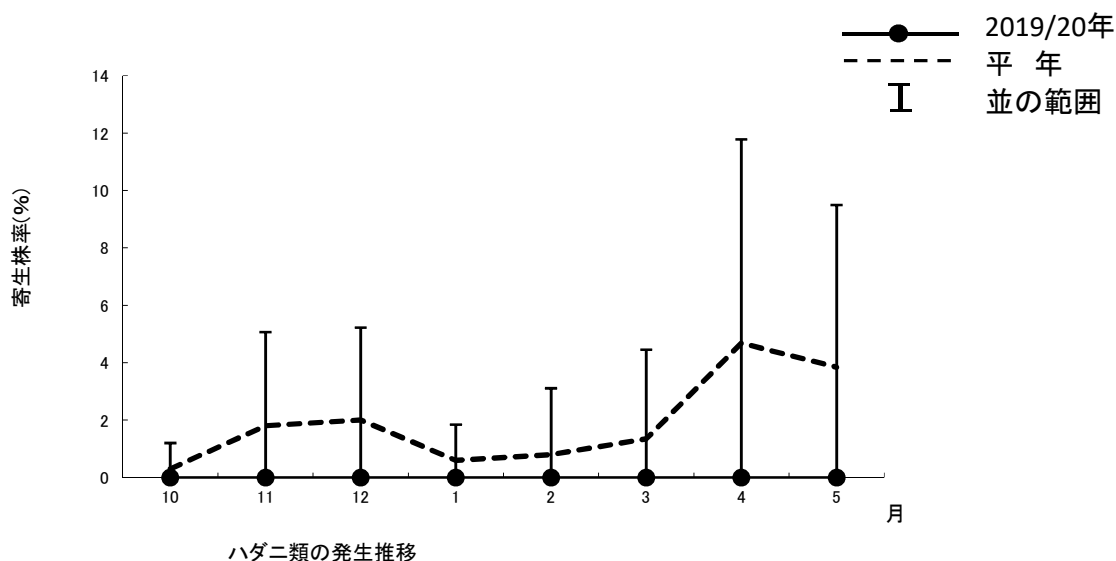


防除のポイント

- ・本種はモザイク病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		 <p>ナンゴクナミハダニ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

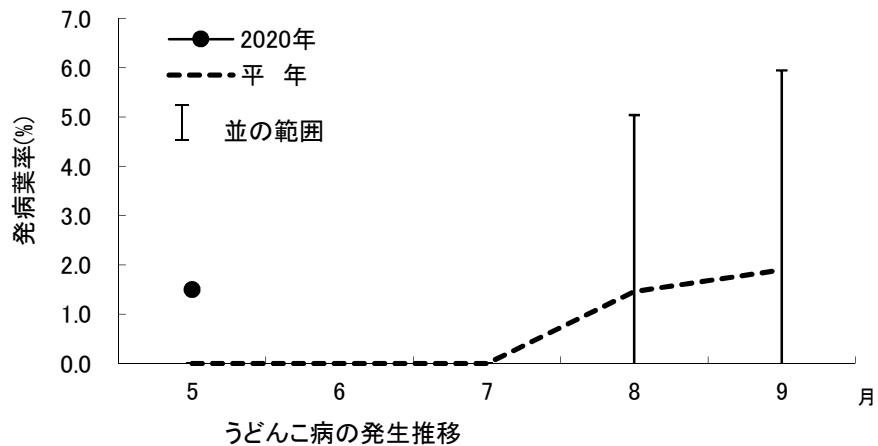


ナミハダニ

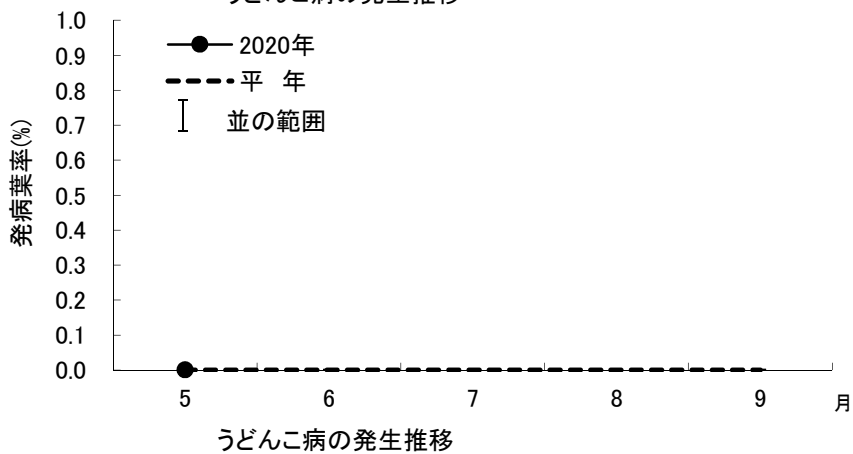
作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
予報	6 月の発生量 (平年比)	多		
	5 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 今後 1 か月の降水量が平年より少ない見込み		

調査結果

(算術平均)




(中央値)



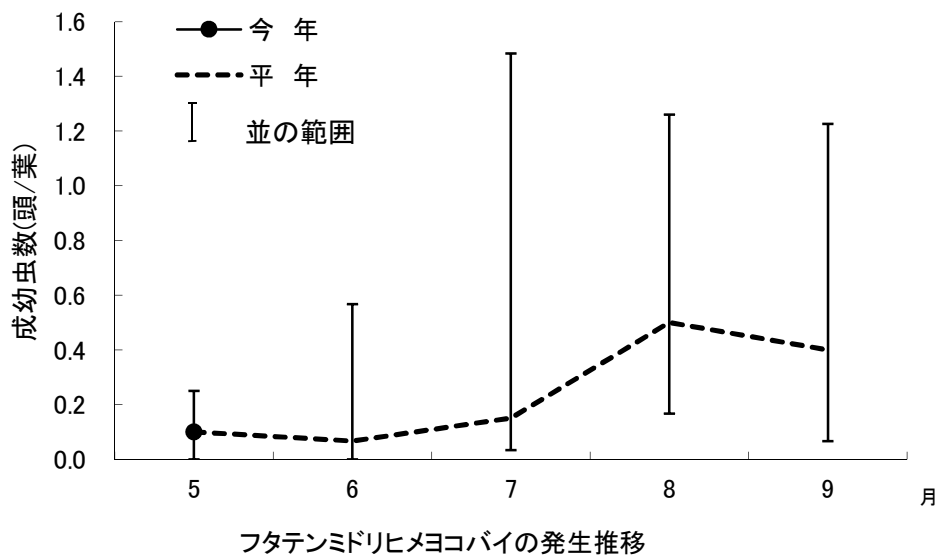
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ			
予報	6 月の発生量（平年比）	並		
	5 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	並		
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年より高い見込み 平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

(中央値)



防除のポイント


・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



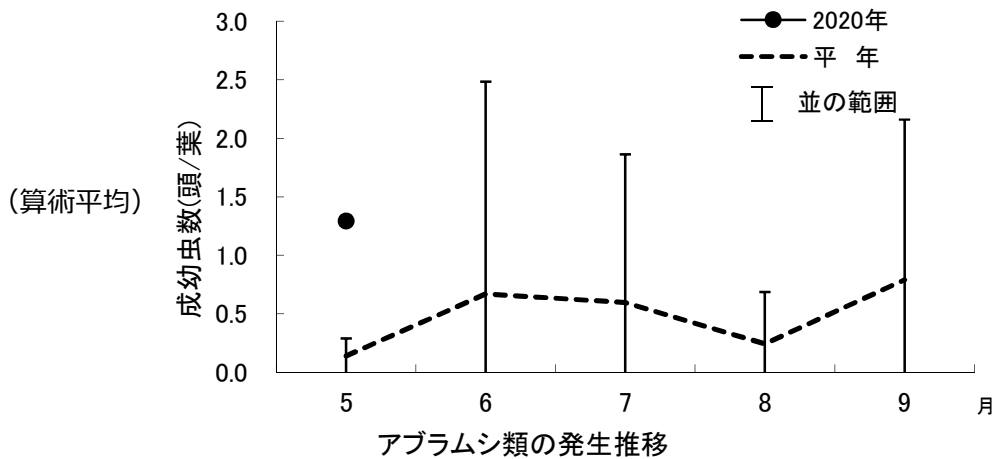
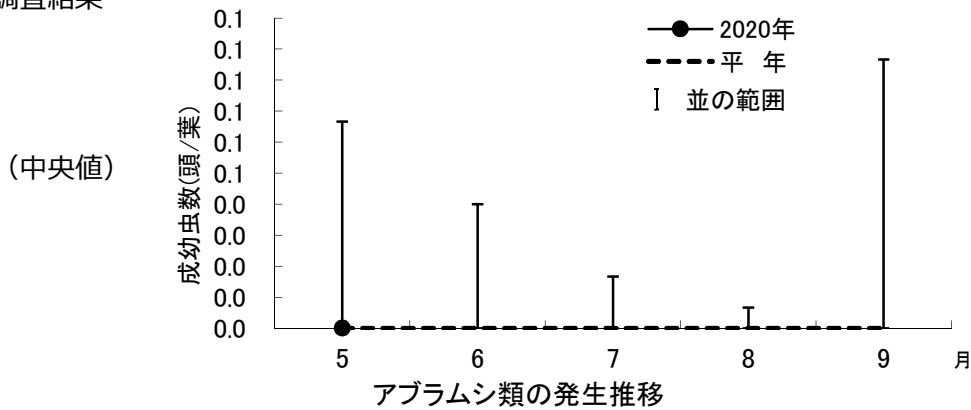
幼虫



被害葉


作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年より高い見込み 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

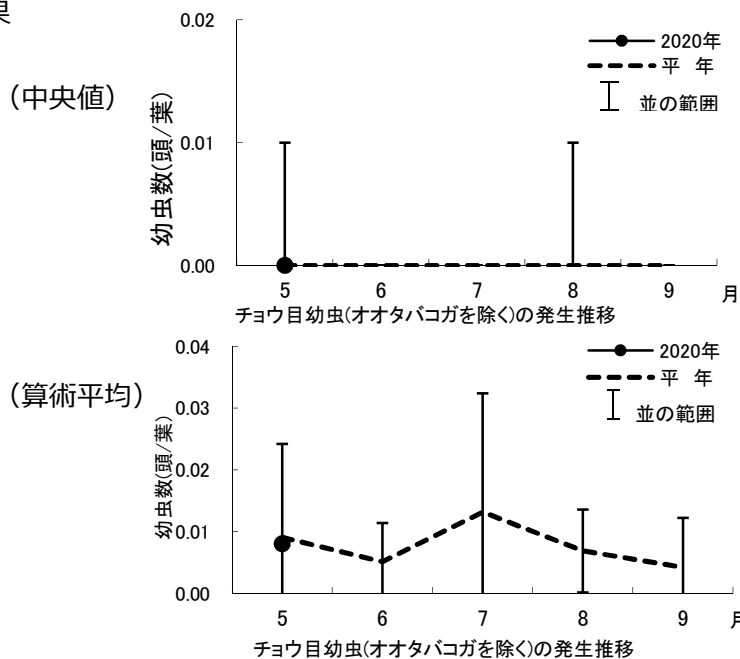


防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	


調査結果



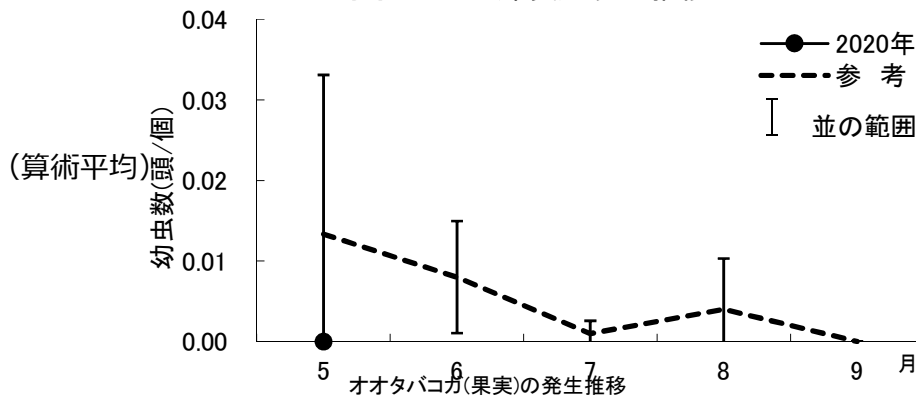
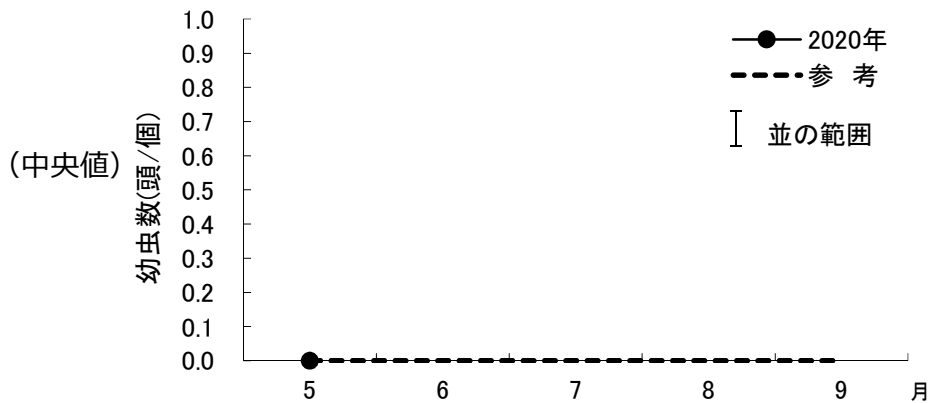
防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	オオタバコガ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果



防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。
- ・被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。